

[Print](#) 

## Strategic Threat



President Ahmadinejad Photo: AP

 [click here to enlarge text](#)

 [click here to reduce text](#)

## イラン：イスラエルと米国は間もなく破滅する

アフマディネジャド大統領：米国とイスラエルは間もなく滅亡することを断言  
Yaakov Lappin (ヤアコブ・ラッピン)

イラン・イスラム共和国放送 (the Islamic Republic of Iran Broadcasting : IRIB) のウェブサイトの報道によると、火曜日のシリア外務大臣との会談中、マフムード・アフマディネジャド・イラン大統領はイスラエルと米国は間もなく破滅すると述べた。イラン国営ファルス (FARS) 通信もこのコメントを報告した。

「マフムード・アフマディネジャド・イラン大統領は… 米国とシオニスト政権のイスラエルが間もなく破滅することを断言した」とのイラン大統領のコメントを伝えた。

報道によると、「イスラム教徒内、特にシーア派とスンニ派の間の不調和に拍車を掛けているのは、地域諸国を支配し、それらの資源を略奪するためにシオニストと米国によって企てられた陰謀である」とアフマディネジャド大統領は付け加えた。

イラン大統領はまた、レバノンでの出来事をイスラエルの破壊を目的にしたより広い範囲の計画に直接結び付けた。同大統領は、「地域諸国」に「シオニスト政権の崩壊はもちろん差し迫っているが、その政権の弱体化の基礎を築くために、レバノン人のイスラム抵抗運動を支援し、種々のパレスチナグループの中で団結と調和の強化に努力する」よう説いた。

アフマディネジャド大統領は、ここ数カ月のうちに幾度となくイスラエルを全滅させると脅迫し、最近では破壊対象国リストに米国と英国を加えたと述べた。

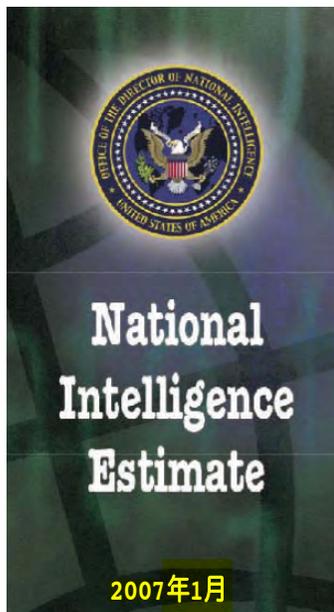
ワリード・ムアレム・シリア外務大臣は、米国が「イスラム教徒の大虐殺」の実行を計画し、地域のイスラム教徒内に不調和」の種を蒔いていると批判した。

IRIBのウェブサイトによると、ムアレム外務大臣は、「平和と静寂を確立するための土台を築きつつ…今後イスラム教徒の大虐殺を阻止するよう地域諸国」に訴えた。

## イラク安定性に関する見通し： 先行き困難

イラク近隣諸国の影響、これらはイラク内の出来事によって影響されるが、これらの外部者の関与は、イラク国内の党派の力関係が自立的な性格を持っているため、暴力の主要推進要因または安定の可能性をもたらさそうにない。とは言っても、イラクシーア派武装組織の特定グループの致命的な活動をイランが支援することによってイラク国内での紛争を明らかに激化している。シリアは今もなお、祖国を捨てたイラクバアス党員の安全な避難所を提供し、イラクへの外国人ジハードイスト（聖戦主義者）の入国を停止するための適切な措置をあまり講じていない。

そのような急速な撤退が起こった場合、ISF（イラク治安部隊）が無宗派の国立機関として生存する可能性は少ないと、我々は判断する。イラク党派に招かれたまたは強制された、近隣諸国は紛争に公然と介入する可能性がある。



2007年1月